

# 大気中の水蒸気 の変化③

指導教諭；

大窪悠斗

# 前回の復習

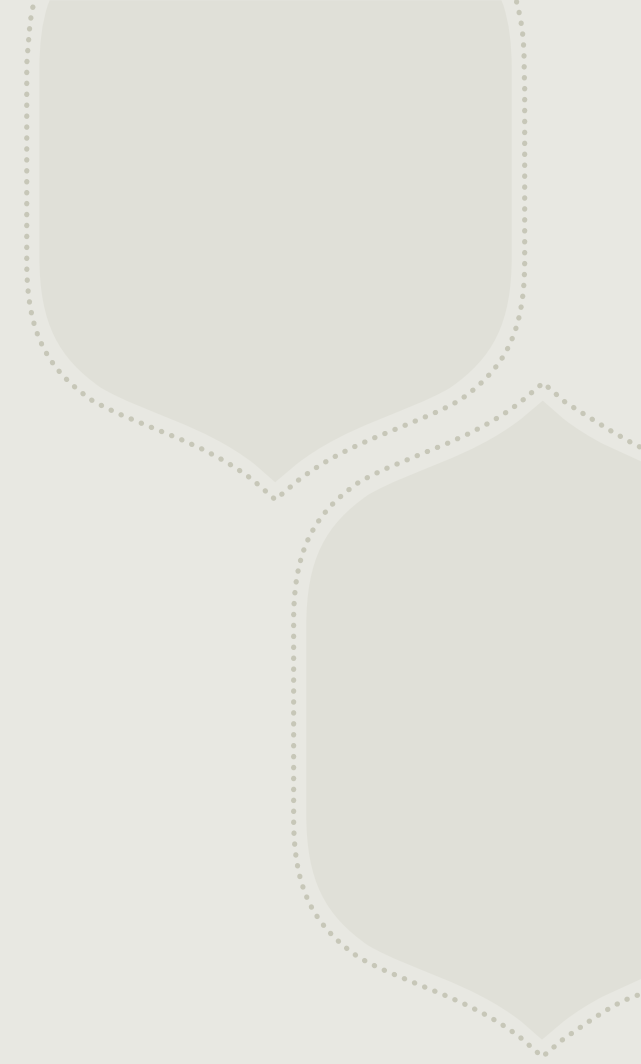
## ・雲のでき方の実験

1. 空気のかたまりが上昇して、気圧が低下、膨張して温度が下がると露点に達する

2. さらに上昇すると水蒸気は小さなちりを含み、無数の細かい水滴や氷の粒となる ←これが雲の正体！

# 本日の目標

雨や雪はどのようにできるのか理解しよう！



# どのように雨や雪ができるの？

1. 太陽の熱が地面や海、川などをあたためる
  2. 上昇気流によって地面や海、川などの水分が水いよう気になって空にのぼる
  3. だんだん水分が大きくなって重くなるとそれが落ちていく ← **これが雨や雪の正体！**
  4. 雨や雪は川や海などに戻っていく
- 1～4を繰り返す。

## 実習 雨粒の大きさを調べてみよう！

- ・教員が提示した粉の入った容器を開ける
- ・この中に水を10滴程度たらす
- ・ふたを閉めて容器を軽くゆする
- ・ケースの中の粉を茶こしでこし、残ったかたまりをとり出す

## 実習 雨粒の大きさを調べてみよう！

- ・最終的にできた粉のかたまりの写真を撮り、その写真をGoogleフォームに提出

<https://forms.gle/mXBt5nZmGcpSkxbk7>

- ・期限は授業時間内とする。

## まとめ

- ・雨や雪は水分のかたまりである
- ・雨粒の大きさはおよそ半径  $2\text{ mm}$  程度